

■近隣市町村の受益者負担金額

市町村名	宅地面積1㎡当り金額	納付期間	分割回数
新潟市	300円	3年	12回
三条市	930円	5年	20回
新津市	690円	5年	20回
燕市	520円	5年	20回
五泉市	522円	5年	20回
加茂市	540円	5年	20回
横越町	234円	5年	20回
亀田町	330円	5年	20回
村松町	210円	5年	20回
小須戸町	330円	5年	20回

## 受益者負担金 制度とは？

公共下水道事業を行うには多くの費用がかかります。この費用には国のお金、市のお金、そして住民が負担するお金が充てられます。住民が負担するお金の大きさを分けて三つあり、①地域全体の工事費の一部を負担する受益者負担金、②家庭から下水道までをつなぐ排水設備工事費、③下水道を使うことで徴収される下水道使用料があります。今回は①の受益者負担金について説明します。

公共下水道が造られると、その地域では、生活環境が整備され土地の受益性が大きくなり、利用価値は増加します。しかも公共下水

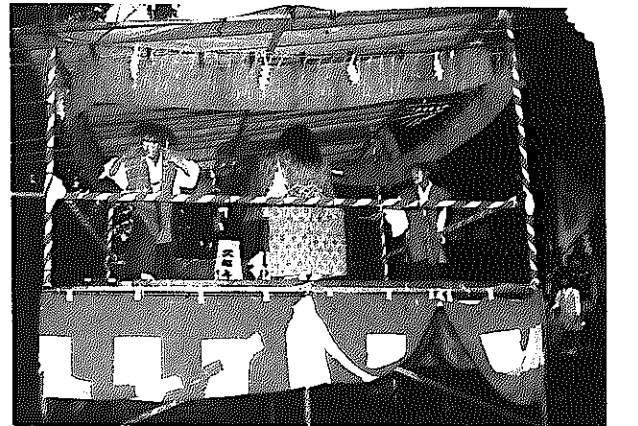
道は道路などの施設と違って利益を受ける人が限られているため、受益する人から負担を求めず公費だけで整備すると、早期に整備された場所の人だけが恩恵を受け、公平の原則からはずれてしまいます。このようなことから、下水道が整備された区域の土地所有者から、下水道を使用する一二年前に建設費の一部を負担してもらおうというのが受益者負担金制度です。

負担金額は宅地面積に応じて算出されるのが一般的です。ある程度事業が進んだ段階で負担金額を算出する方法「精算型」が標準的ですが、白根市では工事説明と併せて早めに負担金額を提示する「実施設計型」で、ご理解と協力をお願いする予定です。具体的な負担額や納付回数、分割納付制度などについては今後検討していきます。納付は管渠整備の済んだ翌年度、早い所では大通地区で平成十四年度から納めてもらうこととなります。



## 24年ぶりに神楽舞いを上演

茨首根地区「太々神楽」



茨首根地区の伝統芸能「太々神楽」が、諏訪神社の秋祭りにて二十四年ぶりに上演されました。舞いは古くから地区に伝わるもの。継承している地元保存会では舞い手減少と高齢化が進み「最後の機会かもしれない。踊ってみた」と、上演が実現したものです。九月二十七日のお祭りには、懐かしい舞いを一目見ようと大勢の人が訪れました。神楽の復活に協力してきた上茨・下茨の両自治会長は「郷土に伝わる伝統芸能が途絶えてしまうのは残念なこと。公民館や学校に呼び掛けて後継者を見つけていきたい」と話していました。

## 農業王国白根を実感

市内施設見学会「ぐる〜り白根」



知っているようで意外に知らないふると白根を再発見してもらおうという市内施設見学会「ぐる〜り白根」。今年度は公共施設見学、伝統工芸探訪、農業施設見学とテーマ別に三回開催されました。三回目の九月二十日には、参加者約二十人が市内の観光果樹園や生産組合のライスセンター、食用菊の畑などを見学。栽培の苦労や技術向上の工夫などの説明に耳を傾けました。

ある参加者は「生産者の話を直接聞くことができ、おもしろさの陰に苦労があることが分かって良かった。農業王国白根を実感しました」と話していました。

## 地域防災の大切さ、再確認

能登連合町内会消火訓練



九月二十八日、能登連合町内会では、町内の家先などに設置してある消火器の総入れ替えを実施。併せて旧消防庁舎前で、古くなった消火器を使って消防署の指導を受けた。この日は約四十人が参加。「もう十年以上薬剤の入れ替えをしていなかった。せっかくなので機会だから訓練もやってみよう」ということになって」と地区の人。集めた約五十本のうち、九本は腐食が進んでいて使用不可能。消防署によれば、古くなった消火器が破裂し、けがをした事例もあつた。参加者も「古い消火器がそんなに危ないとは」とびっくり。訓練後は「災害時には避難誘導とかが必要になる。町内で防災組織づくりをしておいた方がいいねえ」といった話も出て、自主防災の在り方をあらためて考え直していました。

## 敬老の日、白寿の祝い

笠原サキさん(諏訪木四)に郵政大臣表彰



百の字から一をとると白、だから白寿。今年、九十九歳の誕生日を迎えられた笠原サキさんが郵政大臣から表彰され、九月十五日に白根郵便局長から表彰状が手渡されました。

笠原さんは明治三十一年生まれで、市内では三番目の長寿です。「若いとき力仕事をいっぱいやった。だから達者なんだと思う」と元気に話していました。



## 連載・見えてきた拠点(仮称)生涯学習センター⑧ 総合公園を一大交流ゾーンに。白根ルネッサンス幕明けの場

市最大の公園である白根総合公園。平成元年にはカルチャーセンターや催し物広場、野外ステージなどが完成。六年にはテニスコート、しろね大風と歴史の館、そして今年には陸上競技場と年次的に整備が進んできています。

将来、国道8号バイパス、国道460号が開通し、生涯学習センターが完成すればまさにここは一大交流ゾーン。町村合併以来「核がない」と言われてきた白根市にも、ようやくその場が生まれようとしています。

### ■白根ルネッサンス

効率主義、便利主義が指摘される現代、働きすぎる日本人にとって生涯学習は自らの人生を構築する上で欠くことのできないものとなっています。

### ■顔づくり

竹内市長は「総合公園にはカルチャーセンター、大風と歴史の館、多目的広場がある。生涯学習センターを完成させ、いずれば民間の情報産業、サービス産業もこの地に集約させていきたい」と白根の



▲将来8号バイパスが開通すれば総合公園一帯は交流ゾーンとして市の顔となっていく

よって、白根市にしかないもの、今、白根でしか手に入れることのできない本物をみながら見つけることで、失いつつある人間性を回復していけるのではないだろうか。それが白根ルネッサンスであり、生涯学習センターはそれらを支援していくための施設なのです」と語ります。